

長野県本部主催

「高森町市田柿の里撮影会」総評並びに講評

全日本写真連盟関東本部委員 守屋 喜彦

総評

撮影会当日（令和元年11月3日）朝の高森町は曇天でしたが、撮影会が始まってからは幸い秋空も見え、青空に映える市田柿の里の風景や干し柿生産農家を巡る、恵まれた撮影日和となりました。近年の温暖化の影響か、紅葉は遅れている感がありましたが、全国一の干し柿出荷量を誇る高森町は丁度干し柿づくりの最盛期で、地元飯田支部員の案内により生産農家の協力も得て、作業現場の撮影が出来、衛生管理の行き届いた生産農家を巡っての干し柿づくりの様子を参加者は興味深く熱心に撮影され、優れた表現の作品が沢山応募されました。審査に当たっては、出来るだけ類似作品を避けて、特に印象深く心に残る、撮影者の個性の感じられるもの、また「市田柿の里」のイメージアップになる作品を選ばせて頂きました。

講評

最優秀賞 「柿娘の長い舌？」 袖山 哲

全自動市田柿皮むき機がスピーディーに皮を剥く瞬間を切り取った作品です。今日では、昔と違い量産する市田柿の手剥き作業は殆どなくなり、半自動皮剥き機作業へ、そしてより衛生的でスピーディーな自動化が行われています。作者は、柿皮がむける瞬間を、丁度「両眼のある柿娘が長い舌を出した」イメージに作品化しました。

朝日新聞社賞 「甘くな〜れ」 堀金 敏男

美しく皮が剥かれた市田柿は、一つ一つに心をこめて、1.5mの樹脂製のフックのついた紐に吊るし、二酸化硫黄で燻蒸してから乾燥させるのですが、この作業も作業者は衛生面に気配り、心配りしながらの作業です。その様子を、作者は的確に作品化しました。衛生的で美味しい干し柿ができる想いを強くしました。

全日写連賞 「天上から床まで」 内山 卿子

樹脂製のフックのついた紐に、皮をむいた市田柿を吊るして連にし、衛生的な乾燥室に吊るして乾燥させる。このような乾燥場所は、ほこりが入らないよう衛生管理がなされますが、この農家の乾燥室は簡易乾燥室というより床張りの衛生的な乾燥室になっており、たくさん連を吊るして乾燥中の状態を、適格のフレーミングで撮影されていて干し柿の美味しさが印象に残りました。

優秀賞 「柿寺」 島根 八重子

高森町にある直虎ゆかりの松源寺は、松岡城跡入り口にあって、柿のれんを鐘楼にかけることで知られています。この作品の作者は鐘楼の向こうにタイミングよく出た太陽を巧みに配置した作品に仕上げました。露出も適正で印象深く仕上がっています。

優秀賞 「梵鐘のいろどり」 堀 陽平

鐘楼にかけられた柿暖簾の類似作品は流石に数多く集まりましたが、この作品は梵鐘と柿暖簾を巧みな露出とフレーミングで切り取ったことでより印象深い作品になっています。

優秀賞 「残り柿」 井出 利雄

粒のやや小さめの市田柿、収穫されなかった残り柿を竹林と抱き合わせて巧みにフレーミングしています。露出も適正で心に残る作品となっています。

以上